

令和4年度 第1回 地方独立行政法人大月市立中央病院評価員会議事録

日 時 令和4年8月2日（火）13時30分から15時10分

場 所 地方独立行政法人大月市立中央病院 別館2階会議室

出席者〈評価委員〉

榎本信幸委員 小俣光文委員 蜂須賀所明委員 松田政徳委員 和田昌弘委員

〈大月市中央病院〉

山崎院長 山内副院長 富岡副院長 佐藤事務長 井上看護部長 藤本事務局長

藤原総務課長 槌屋健診センター課長 村上医事課リーダー

〈事務局〉

小林市長 鈴木市民生活部長 原子育て健康課長 安藤健康増進担当リーダー

健康増進担当上條 健康増進担当堀内

1. 開会

司会： 定刻前ではありますが、委員の方々全員が集まっていたきましたので、ただいまから令和4年度第1回地方独立行政法人大月市立中央病院評価委員会を開会いたします。

私は本日の司会を務めさせていただきます、大月市市民生活部長の鈴木です。

よろしくお願いいたします。

それではお手元の次第により進めさせていただきます。

まず、委嘱状の交付であります、本来ならば小林市長から委嘱状の委員の皆様へ直接お渡しするところですが、新型コロナウイルス感染症防止対策のため事前に資料とともに机の上に置かせていただきましたのでご了承ください。

なお、委員の皆様の任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日までの2年間となりますので、よろしくお願いいたします。

2. 市長あいさつ

司会： それでは、小林市長から挨拶を申し上げます。

小林市長： はい、皆さんこんにちは。

大月市長の小林でございます。

本日は、令和4年度第1回地方独立行政法人大月市立中央病院評価委員会にご出席を賜り、厚くお礼を申し上げます。併せて委員の皆様には大変お忙しい立場にも関わらず、本評価委員会の委員をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症対策は社会経済活動が徐々に進んでいる中で、感染防止に向けた取り組みを支援するとともに医療体制の強化も必要であり、まだまだ様々な分野におきまして負担が大きくなっていることと拝察いたします。

その中で中央病院におきましては感染者の受け入れ体制を整える中で院内感染等の大きなトラブルもなく対応していただき、医療関係者の皆様にご尽力いただいておりますことに感謝を申し上げます。

大月市立中央病院は平成31年4月に地方独立行政法人として新たなスタートし、このたび3回目の決算を行いました。

また、中期目標の期間が令和元年度から令和4年度となっているため、今年度は令和3年度単年度分とともに、令和4年度の見込みを含む4年間の評価を行っていただく中で、法人の業務は継続していなければならないと考えておりますが、業務継続の検討も含めてご意見をお聴かせいただきたいと思います。

さらに、業務継続には大月市にて第1期中期目標および法人にて中期計画を評価委員会に付議しながら策定することとなります。

また設立団体として業務の評価とともに、第2期中期目標および中期計画につきましては、議会の承認求めていくこととなります。

大月市立中央病院は大月市はもとより山梨県の東部地域の拠点病院として、また救急医療体制の一翼を担う病院として地域に根ざした医療の提供を行ってきたところであります。

本評価委員会は、大月市が意見を伺う機関ではありますが、今後もこの地域で市民の信頼される病院、さらに健全な経営のもと、質の良い医療を将来にわたって安定供給できる病院作りへのお力添えをいただきたいと存じます。結びに、委員の皆様には、多方面から忌憚のないご意見、ご検討を賜り、自立できる病院作りの糧としていきたいと考えておりますので、本日はよろしく願いいたします。

以上であります。

司会： 続きまして、大月市立中央病院山崎理事長よりご挨拶申し上げます。

山崎理事長： 大月市立中央病院の山崎でございます。

（山崎院長）本日はお暑い中、ご足労賜り誠にありがとうございます。

また平素より当院の運営とご協力とご支援をいただきまして、重ねてお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が国内で初めて認められてから、ほぼ2年半が経過しよう

としています。

経済活動と人命尊重、これを高い次元で両立していくということは、政府の施策といえますか政治判断によるところであります。治療の前線でおります我々もそろそろこの疾病がコモンディジーズのような扱いになってくるということも、視野に入れながら、対決というか対峙していこうと思っているところです。榎本先生が松田先生が新型コロナウイルス感染症に対する本当に最前線のところから今日のご意見をいただくためにわざわざお越しいただきました。

ありがとうございます。

また小俣先生や和田先生は主にファイナンスの側面から、病院の経営についてきちんとやっていただきたいと思っておりますし、蜂須賀先生におかれましては、病院という医療機関が独善的にならずに地域の先生方あるいは住民の役に立っているかという視点での厳しいご意見をいただければと思います。

現在進行中の当院の第Ⅰ期中期計画が立案されました。2018年にはまたこの新型コロナウイルス感染症の影も形もなかった頃です。

そのときに比べますと、社会・医療の状況が様々な点で異なりますが、我々はこの新型コロナウイルス感染症に対峙しながらも、できる限り中期計画の実現に向けて、職員一丸となって取り組んでまいりました。

ただ、残念ながら進捗に関しては、分野ごとに差異があるのも事実です。

本日は今後の経営健全化のために、先生方の忌憚のないご意見を頂戴いただければありがたいと思います。

よろしくお願いいたします。

4. 出席者紹介

司会： 続きまして、評価委員を名簿順にご紹介させていただきます。

山梨大学医学部附属病院病院長の榎本信幸様。

榎本委員： 榎本です。よろしくお願いいたします。

司会： 公認会計士、明治大学経営学部専任教授 小俣光文様。

小俣委員： 小俣です。よろしくお願いいたします。

司会： 大月地区医師会会長 蜂須賀所明様。

蜂須賀委員： 蜂須賀です。よろしくお願いします。

司会： 富士吉田市立病院病院長 松田政徳様。

松田委員： 松田です。よろしくお願いいたします。

司会： 大月市社会福祉協議会会長 和田昌弘様。

和田委員： 和田です。よろしくお願いします。

司会： 続きまして、大月市および

地方独立行政法人大月市立中央病院の役員の紹介をさせていただきます。

大月市長 小林信保でございます。

大月市立中央病院理事長兼院長 山崎暁でございます。

副理事長兼副院長 山内克己でございます。

理事兼副院長 富岡英則でございます。

理事兼事務長、佐藤貴子でございます。

理事兼看護部長 井上勝美でございます。

理事兼事業局長 藤本雄一でございます。

以上で紹介を終わります。

5. 議事

司会： 続きまして、本評価委員会委員の委員長・副院長を選任したいと思います。

地方独立行政法人大月市立中央病院評価委員会条例第4条第1項では、「委員会に委員長及び副院長を置き、委員の互選により定める」とされておりますが、いかがいたしましょうか。

蜂須賀委員： 榎本委員をお願いします。

司会： ただいま委員長に榎本委員との推薦がございました。

それでは、榎本委員に委員長をお願いすることに決定いたしました。

また同様に、副委員長も互選することとなっておりますが、いかがいたしましょうか。

委員長： 蜂須賀委員にお願いしてよろしいでしょうか。

司会： それでは副院長を蜂須賀委員にお願いいたします。

続きましてこれより議事に入ります。

当評価委員会条例第5条第1項の規定により委員長が議長を務めることとなっております。

榎本院長は、議長席にお移りください。

それでは、この評価委員会の新委員長となりました、榎本委員長からご挨拶をいただきたいと思います。榎本委員長よろしくをお願いいたします。

委員長： はいそれでは改めまして、山梨大学医学部附属病院 榎本でございます。

（議長）今日は皆さん本当にお疲れ様です。

今いろいろご挨拶にございましたように本当にコロナで大変な地域を守るために、あるいはあのコロナに対応するためにですね非常に皆様方もご苦労されてきたところではないかと思います。私達も山崎先生の話先生もみんな大変だと思えますけれども、今日本当に拝見しますと、大変素晴らしい成果が上がってるようでございますけれども、それを皆さんで確認させていただいて、評価委員会の方を進めさせていただきたいと思いますので、どうかよろしくをお願いいたします。

司会： ありがとうございます。

なおコロナ感染症拡大状況を鑑み、本会議の終了は15時を目処としたいと思います。

また今年度は、市長の挨拶にありましたように、中期目標の最終年度となり、3年度と4年間の見込みを含む評価のご意見をいただくこととなりますが、本日は会議時間を短くするために3年度の評価を主に行っていただきたいと存じますのでご理解のほどよろしくお願い致します。

それではこれからの進行は榎本委員長にお願いいたします。

委員長： はい。それではよろしくをお願いいたします。

（議長）今回の議事は今ありましたように、令和3年度の業務実績評価と中期目標の期間の終了時に見込まれる業務実績評価の2件についての議事というくことになってございます。

皆様、どうかよろしくをお願いいたします。

それでは議題の1番目、令和3年度事業年度に係る業務実績報告書についてでございます。
病院事務局の方からご説明をよろしくお願いします。

藤原課長： それでは、お手元の資料に沿ってご説明いたしますが、その前にすみません、クリアファイルに入っているA4の紙ですけど、資料1、資料6につきまして差し替えをすみません、お手数ですが、していただきたいと思います。よろしくお願いします。
申し遅れましたが、私が大月市立中央病院総務課の藤原と申します。
よろしくお願いいたします。
説明は着座にて失礼いたします。

～ 資料1・2・4の説明 ～

議長： はい、ありがとうございました。黒字だったということだと思いますけれども、何かご質問等ございますでしょうか。
小俣先生よろしいですか。

小俣委員： はい、大丈夫です。

議長： はいそれでは引き続いてよろしくお願いいたします。
年度評価ですね。

事務局： 事務局の子育て健康課 原と申します。
よろしくお願いいたします。
着座にて失礼いたします。
それでは資料3 令和3年度事業年度に係る事務業務実績報告書10ページからの項目別の状況についての評価に移りたいと思います。
全部で37項目ありますので、四つに分けて評価を進めていただきたいと思います。まず病院から説明をしていただきまして、その後質問等をお聞きし、評価をしていただくという流れでお願いいたします。
評価委員の皆様には事前に資料を送付させていただいておりますので、法人の自己評価を元に、評価の変更や特記するコメントなどがありましたらご発言をお願いしたいと思います。以上です。

議長： はい。

ありがとうございます。それでは、今ご提案のありましたように四つに区切りながらです、自己評価をいただきたいと思います。

初めにそうしましたら、10ページの大項目I「市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」の小項目Iから10について病院事務局からご説明をお願い申し上げます。

藤原課長： それでは、10ページの小項目I、地域医療の維持および向上についてですが・・・

～ 資料3 小項目I～10の説明 ～

議長： ありがとうございました。

大変ご苦勞されてる中で素晴らしい実績と質の向上が得られているというふうなことを承りいたしましたけど、何かご質問ございますか。

営業収益はいくらだったんでしたっけ、結局1年間で。

山崎院長： 20億をちょっと上回るぐらいですね。

議長： 20億円ぐらいですね。

ドクターの数が11人。

山崎院長： はい。

議長： 素晴らしいですね。

我々の病院は山梨大学附属病院だと年間収益が約ざっくりで200億ぐらいで、ちょうど10倍ですね、ところが我々ドクターが400人もいるんですね。

だから申し訳ないけど、我々のドクターのパフォーマンスは皆様方の4分の1だってことですよ。

1人当たり5億円ですからドクター1人当たり5億円、医療収益が。

皆様方は200億円で10人ですから、ドクター1人当たりの収益20億円ですから、一応あれですね。ドクター1人当たりの収益は4倍ですよ、大学病院の。いかにチーム医療が素晴らしいかということで、私は感じましたね。

全職員の数は何人ですか。200人ぐらい。

山崎院長：　そうですね200人前後です。

議長：　我々やっぱりちょっと2,00人ぐらいなので、職員の数と同じぐらいです。

2,00人。

ところで収益も違うところドクターの数は、我々が40倍ということなんで、皆様方は要するに、いろいろな職種の方がいろいろ今お話いただいたように、いろんな連携をとりながらですね、きっちり収益を上げてるんだなっていうのは、関心いたしました。

松田先生、何かございますか。

松田委員：　本当同様な意見ですね。本当に少ない人数で。

意見と質問よろしいですか。

議長：　はい。

松田委員：　一つはですね小項目の2のところで、断らない救急ということのうちも頑張ってやってるわけですけども、やっぱり内科・外科みたいな範疇でいくと、どうもやっぱり専門の先生じゃないっていうときがあって、そういう場合はオンコールの医師にちょっとその時だけのそういう患者さんがもしまいちあったときは来ていただけるような体制をとって、できるだけしょうっていうふうにしてるんですけども、そういったことはいかがでしょうか。

山崎院長：　よろしいですか。

恥ずかしながら、病院のそばに医師官舎が一応ございまして、私は住んでおるんですが、あとはここに並んでいる副院長2名が、週に半分以上は官舎にいていただいていると。他のその11名の常勤医師の中の大半はちょっと都内から通っていたりとか、かなり特殊な事情で採用している人材が多くいます。なかなか休日や夜間のオンコールっていうのを院長・副院長だけでカバーするのは体力的、人力的にちょっと厳しいところがありまして、少し情けない結果に繋がっていたんじゃないかと思います。

松田委員：　ありがとうございます。

議長：　大丈夫ですか。情けないなんてことは、私は滅相もないと思いますけどね。

本当によくやっていただいてると思います。

他に何かございますでしょうか。また後で引き返してもいいと思います。

それでは先に進みたいと思います。次の小項目からお願いいたします。

よろしいですか。評価はもうこれでよろしいんじゃないかな、ご異議はございませんでしたので。次は小項目13から21ということになろうかと思います。

藤原課長： それでは14ページの小項目13 患者中心に医療の提供についてです。

～ 資料3 小項目13～21説明 ～

議長： 評価の方は4小項目21まで1回区切ることとなっております。どうもありがとうございます。患者サービスの向上ということでですね、様々な取り組みをしていただいて本当にこれもいろいろ大変な中でですね、いろいろご実績も上がってるようで非常に関心いたしましたけれども、何かご質問等、ございますでしょうか。

松田先生お願いいたします。

松田委員： 数字のちょっと確認なんですけど、小項目14の2021年度の外来患者数っていうのが本資料の6ページの数がちょっと異なっていて、6ページので66,906人となっておりますので、ここは数字の間違いでよろしい。

藤原課長： すみません。資料を差し替えましたので、15ページの2021年度の数値をすみません65,556人に訂正をお願いします。

松田委員： はい、わかりました。

議長： はい、65,556人こちらの差し替えの方ですね。

1日平均223人ですね。

これ土曜日もやってらっしゃるんですか、外来は。

山崎院長： 午前中だけやっております。

議長： 我々の病院は1日平均1,500人ぐらいですんで、10分の1になおして150人ぐらいになりますよね。223人とも相当忙しいと思うんですね。

本当に大変だと思います。ちなみにこの一つ上の1日あたりの入院患者数67人でございますけれども、これは我々の病院が600ベッドで60人ぐらいですね。
やっぱりかなりいろんな意味で10分の1は上回っているのも、いろいろ感心した次第です。
待ち時間調査はされなかったということですけども、今これ電子カルテなんじゃないかな。

山崎院長： はい。そうです。

議長： 電子カルテですと簡単に待ち時間調査できるんじゃないかな。

山崎院長： はい。

議長： 患者さんが受付されてから、電子カルテが開く時間を調べればいいんで。
院長先生いかがでしょうか。

山崎院長： ええ。電子カルテ上ですと、ステータスの変更受付から、確認みたいな内科外来到着みたいところで、あの時間帯はおっしゃられるように出しやすいと思うので、ぜひ次年度の課題とさせていただきたいと思います。

議長： やっぱり患者さんにとって時間が短い非常にありがたいと思いますので、これは予約制なんじゃないかな。それとももう当日予約なしにいつでも来ていいよ、受付可って感じなんじゃないかな。

山崎院長： ええ。今は混在しているような状態で。

議長： そうですか。いろいろ今、スマホで予約できたりとかいろんなことやってますんで、ぜひまた教えていただければなっていうふうに思いました。

他よろしいでしょうか。何かご質問があれば。

先生の講演会が50人で満員だったということですね、感心いたしましたけど、コロナ禍でなかなか患者さんでもやっぱり、いろいろなお話聞ける機会が非常に嬉しいことだと思いますんで、非常に良かったんじゃないかなと思いますし、医療安全も非常にいろいろやってらっしゃってですね、感心いたしました。

そうしましたら、ちょっと先ほど少し飛ばしちゃったんですけど、この評価のポイントがこれで適正かどうかってことを確認する手順になっていると思いますけどね妥当なポイント

じゃないかなと思います。これ数字が多い方がいいんですよね。

山崎院長： はい。

議長： ですよ。

はい。ちょっと戻って恐縮なんですけど先ほど1点ってのがあったんですけども、病院評価の受審を少し先延ばしになったからって言うことで言うて1点って言うんですけど、これはこんな厳しくする必要あるんですか。

山崎院長： これは毎年指摘されていることなので、それが未達ということはやはり相当厳しく考えないといけないかと。

議長： これ何年ぐらい受けてらっしゃらないんですか。10年も受けたことがない。

山崎院長： 一度も受けたことがないです。

議長： 一度も受けたことがない。ぜひお受けになった方がいいのは間違いないですけども、市長これ1点でいいですか。かなり厳しいですけど。

市長： 前年度より良くなっているわけじゃないんです。前年度と同等の評価でよろしいかと考えました。

議長： ぜひ頑張ってください。

やっぱり受けられるという職員の皆さんの自信もつきますので、いいんじゃないかなと思います。

はい。では先に進まさせていただきたいと思います。

次の小項目ありますね、22から31をよろしくお願いいたします。

藤原課長： 16ページ 小項目22 地方独立行政法人としての運営管理体制の確立ですが・・・

～ 資料3 小項目22～31説明 ～

議長： ありがとうございます。病院の運営についてですね、いろいろご説明いただきましたけれども、何かご質問等ございますでしょうか。

小俣先生よろしくお願いいたします。

小俣委員： 小項目25と26項目、小項目8にも関わっていると思うんですけど、やっぱり民間の企業が人事制度ですね、人事制度を開拓して、優秀な人材を雇用するということで非常に悩んでいるところなんですけども、病院がこういう状況の中で、経営をやりながら人事制度改革するという非常に大変だと思うんですけども、例えば小項目25と26を段階的に規定や規則の制度の見直しを進めていくということになってますけど、現時点ではどのような状況なんですか。

山崎院長： まず各病院は様々な職種がありますので、各部門ごと自己の成長評価というかですね、仕事内容の評価ができるように最初はちょっと昇進試験とか、そういったものの制度作りを考えていたんですが、もう少し穏やかなところからはじめようということで、まずは給料を減らしていく、評価までやっていくと元々がやはり公立病院の出自ということもありまして、抵抗も考えられますことからプラスアルファの賞与の点で上乗せできるかどうかというところで、まずは評価制度へ組み込む形で社会保険労務士と一緒に作り始めています。今年度の後半からテストを始められて、できれば来年度からそういった評価を実際に金銭含めて、実現していきたいなって準備をしています。

小俣委員： 多分先ほどから話があったけど、特に常勤医師が確保できればもうちょっと医療収入が伸びるというお話もあったと思いますけども、医師の方のあれですかね、待遇改善とかそういうことも今後考えていくということですか。

山崎院長： 医師も考えておりますが、医師の待遇はそれほど僕は悪くないんじゃないかなというふうには今感じています。ただ榎本先生の病院も含め、非常勤の先生に非常にお力を多く借りている部分がありますので、そういったところはやはり経営効率考えますと、常勤の医師に是非来ていただきたいと。ただ松田先生の富士吉田のように、移住しても住み良いですね、住みよいというと市長に怒られますけど、楽しいところっていうのはデパートもちょっとイオンしかないっていうような感じでなかなか移住を促すっていうところまでちょっと難しいところがありますが、保育室を充実させたりとか全ての職種に安定して勤めてもらえるような体制作りは年々強化しているつもりでおります。

小俣委員：はい。ありがとうございました。

議長： はい、ありがとうございます。

本当にいいところだと思いますけどね。

看護師さん何人いらっしゃるんですか。

井上看護部長： 看護師は常勤・新人入れても41で非正規を入れて約80弱ぐらいで。

週2回とか、時短とかいろんなものを入れながらの形で対応させていただいております。

議長： やっぱり規模感として我々がやっぱ800人ぐらいなので、ちょうどやっぱ1/10ですよ。

何もかも。ドクターの数以外はね。本当によくやられてると思いますよ。

ここにCTの件数が出てくるんですけどね、CT 3,000件ぐらいですよ。

我々のところは2万件。だから皆さんのところになると2,000件しか撮れないなんですよ。3分の2しか取れなくてCT室もすごい頑張ってるなと思っていましたが、我々もようやく今年は3万件ぐらい行きそうなので皆さんと同じぐらいということですね、本当に何て言うんですかねコンパクトに効率的にいろいろ運営されてるんじゃないかなっていうふうに私は思いますけれども。

あとちょっと気になるっていうのはやっぱり今院長先生がお話になった通り、給与費の比率がすごく高い気がするんですけど、14億円ぐらいですよ、給与費は。全体の収益は20数億円で補助金が5億円くらい入って30億近くなってるんですけど、やっぱり給与費はやっぱり医療収益の半分以上を占めちゃってるので、ここが大きいだろうなと思って、おそらく今院長先生おっしゃったように非常勤ドクターを雇えば雇うほど、ここが大きくなってるので、非常勤ドクター、要するにコストって普通のドクターの数倍ありますからね。

だからそれで圧迫されるのかなと思ったんですけど、いかがですか、院長先生。

山崎院長： ただ、独立行政法人とは言いまして、大月市立中央病院でやはり経営効率だけを考えて、極端にその診療科を絞ったりっていうことを目指すのは本筋ではないと考えています。小児科だったりとか、そういった地域に根ざした病院として、ある程度のコストっていうものは覚悟の上で進めていかないといけないかなと思います。

議長： そうしますと逆に言うと、14億円の人件費がかかるんだって医療収益の方はその2倍ぐらい、28億円ぐらいに持ってくってという作戦かなと思ったんで、今いろいろやられてるんだと思いますけれども、すごいいいと思いました。

あと加算も3,000万円ぐらい新たに取得された話があって、それを考えられてたんだなと、我々も相当頑張って加算を新たには数億円取りましたけど、もう10倍ですから皆さんの率で言えば3億円分ぐらいでちょうど同じぐらいなので、やっぱりいろいろやられてるんだなとね、感心しました。やっぱり3,000万円ちょっといろいろ工夫されたんだと思いますけど、でもやっぱりそういうところを工夫すると確実に取れるので、特に今の夜間の看護師さんとか、やっぱり看護師さん、いろんなスタッフの配置をすごくいろいろ厚くなるので、今要するにそういうチーム医療とか連携とか、患者さんサービス中心にやるとちゃんと加算が入るようになってるんで、すごいいいなって思いました。

看護部長さんがうんうんって肯いてらっしゃいますけど。全く同感でございます。

他に何かございますか。

そうしましたら評価の方も何かちょっと2点っていうのを随分厳しいのがついてたんですよ。いいんですか。

外部監査法人からの、会計士さんによる会計検査をしてないということですか。

山崎院長： そうです。

議長： これは市の中で、専門の方がやっていたいてるんですか。

山崎院長： 監事の方に外部監査をしてもっらっていますが、有資格者ではありませんので小俣先生にも敬意を示してここは2ということにしました。

議長： なるほど。

小俣先生、これよろしいですか。

2点ってことで。いろいろ改善の余地ありっていうことでよろしいでしょうか。

やっぱり外部監査法人でご意見を伺った方がいい部分があると思います。

小俣委員：経営が改善されて、余裕できたらまず先に、収益を改善してからだと思いますけども。

議長： わかりました。

ではここは2点ということで。

他よろしいでしょうか？

どうもありがとうございますそしたら最後のパートに移ってよろしいでしょうかね。

32から37をよろしく願いいたします。

藤原課長： 小項目32です。こちらにつきましては2021年度の実績ですが

～ 資料3 小項目32～37説明 ～

議長： はい、ありがとうございました。小項目33からですね。その他の業務に関する重要事項ということでご説明いただきましたけれども、何かございますでしょうか。

薬剤師さん栄養士さんやリハビリの技師さんは足りているんでしょうか。

山崎院長： 人数的には足りておりますが、薬剤師はかなり高齢化が進んでいて、年齢層という意味ではまだまだ各部門とも十分とは言いません。

議長： 今いろいろ学校とも連携してですね、多分努めてらっしゃるということで、おそらく、これからやっぱりそう言った方々をちゃんと確保していくということが、いろんな加算を取っていく、そういうために非常に重要なんで、非常によくやってらっしゃるなっていうふうに思いまして、見習おうと思いましたが、私達も。

他に何かございますでしょうか。

リハビリはどのくらいやってらっしゃるんですか。今技師さんは何人いらっしゃるんですか。

山崎院長： 理学療法・作業療法を含めると、8名。

議長： 結構いらっしゃるんですね。やっぱりご承知の通りリハビリは非常に収益性が高いって言う大変ですけど、ニーズが多いので、やっぱり地元の病院としては非常に重要なところじゃないかなというところですよ。

山崎院長： はい、特に患者の年齢層が80代、90代が多いものですから。

おっしゃる通りです。

議長： 生活の質を維持する。非常によろしいんじゃないかなと思いました。

他よろしいでしょうか。

そうしましたら評価の点数の方も、ご説明いただきましたけれども、何か問題がある点数はございますでしょうかね。

2点というがありますけど、「健診センター施設の拡充について」ということで、これやっぱり健診も非常に大事なんじゃないかなと思って、先生方を見てると健診部門も非常によくやってらっしゃってですね、比重が高いように思ったんですけど、この拡充の計画はあるんでしょうか。

山崎院長： 今のところございません。

ちょうどこの建物の一番下のベースフロアに健診センターがあるんですが、建物自体をもうちょっと使おうかなと思ってまして。

なかなかその、これ以上機械を詰め込めないっていうところで、拡充できていません。

議長： やっぱり患者さんにとってあの病気になってから病院にかかる、病気にならないようにあるいは早期発見する方が患者さんや住民の方にとっては非常によろしいと思いますので、ぜひこれが2点ということで、今後頑張ってくださいということかなと思いました。

蜂須賀先生、和田先生よろしいですか。

蜂須賀委員： はい。

和田委員： はい。

議長： ありがとうございます。

そうしましたら点数につきましても、これでお願いするということにさせていただきたいと思います。

続きましての次第はですね、「第5 予算」および最後の「第10 地方独立行政法人大月市立中央病院の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項」についてまで、ご説明いただいてよろしいでしょうか。

5ら10ですね。よろしくお願いいたします。

藤原課長： 第5の予算ですが、資料Iの20・21・22、別紙I・2・3に記載してある通りで、説明は割愛させていただきたいと思います。

議長： 続けて、10まで続けていただけますでしょうか。

藤原課長： ～ 資料3 第5～第10まで説明・（資料1 14ページ 第6～第9 参照） ～

議長： はい、ありがとうございました。

この別表1・2・3というのは、この業務報告書の後ろについているもののことですか。

山崎院長： はい。

議長： 先生すみません、これは予算と決算がありますが、予算なのに決算額が書いてあります。

これは業務報告書なので令和3年度の予算と決算が書かれてるんですね。

令和4年度予算言ってるわけではないですよね。

山崎院長： そうですね。3年度ですね。

議長： 失礼いたしました。

はい、ありがとうございます。よろしいでしょうかね。

利益剰余金が4億円ぐらい出たんですよね。

山崎院長： 4億円です。はい。

議長： 素晴らしいと思ったんですけど、何を買われる予定なんですか。

山崎院長： 剰余金、全てではないですが、借入金を使いながらですが、電子カルテの更新に1億円以上かかりそうな見込みです。

議長： 電子カルテはどちらのメーカーを使われてるんですか。

山崎院長： 同じ富士通です。

議長： 富士通さんね。

すごく電子カルテお金がかかりますから、大変だと思いますけれども。

他よろしいでしょうか。はい、ありがとうございました。

次へ行きました、ここまで令和3年度事業年度に関わる業務報告書のご説明をいただき審議を進めてまいりました。

全体を通して何かございますでしょうか。はいありがとうございます。

そうしましたら、事務局から何か他にございますでしょうか。

事務局： では資料5「項目別法人自己評価集計結果一覧表」についてご説明させていただきます。

これは法人の自己評価を取りまとめたものですが、今回、評価委員会の意見を反映し、全体評価を作成し、次回の評価委員会にご提案させていただきたいと思います。

以上です。

議長： はい。

なかなか厳しい自己評価で1点とか2点が付いていたんで、あれですけれども、将来に向けての意欲を示したということかなと思いますけれども。

よろしいでしょうか？これではいい、ありがとうございました。

それでは次回の評価委員会に再評価の提案をしていただきますということです。

続いて本来ならば、議題の2番目「中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務実績報告書」について、先ほどの令和3年度実績と同様審議しなければならないところでございますが、重複する部分も多くありますので、令和4年度の見込みを作成した過程で採用した数値や改善、追加などをした部分の考え方について、簡潔に病院事務局からお願い申し上げます。

佐藤事務長： それでは、私の方から、令和4年度の見込みを作成した時点で算用した数値などに関する基本的な考え方を中心にご説明をさせていただきます。

～ 資料6 19・20ページ、 資料7 14ページ、 資料7 自己評価 説明 ～

議長： ありがとうございました。来年度の計画を説明していただきましたけども、いかがでしょうか。

結局来年の入院収益はいくらを目標にしているのですか。

山崎院長： 入院収益は9億円弱ぐらい。

やはりコロナの入院で1億円前後の収入がありましたが、昨年のデルタに比べますと、現在のBA.5の患者はかなり軽症で、酸素も投与のしない人がほとんどだったとかそれ

から本日付でこの東部地域、他の市立病院のコロナの病床が確保されたということで、
当院の確保病床数が20から10へ減少しました。
その点も含めて収益が下がることを見込んでおります。

議長： コロナ患者が減るのはいいことですけどね。

ありがとうございます。

結局、先生方が言うと外来収益は9億円ぐらいあってですね、すごいと思うんですね。

それに対してやっぱり入院収益はやっぱり10億円弱ってというのは、少し我々と比率が違うかなと思ったんですけども、これ平均在院日数とか何日ぐらいなんでしょう。

山崎院長： 14日前後です。

議長： これを短くするようにしてるんですか。

山崎院長： 今はそれほど回転率を目指してはおりませんが、比較的常勤の若い先生なんかは大学でトレーニングされたのか、早く早くっていう習性がついているようです。

議長： 違うんですよ。我々は在院日数を伸ばす方向でやってるんですね。

やっぱり平均在院日数を減らそうとすると、どんどんどんどん入院収益が落ちるので、同じですよ。若いドクターはここ10年間ぐらい洗脳されちゃって、平均在院日数が短ければ短いほど患者さんのためにいいんだというふうに洗脳されちゃってるんですよ。

でも全然違うんですよ。

例えばですね、うちの病院に起こったことってどういうことかっていうと、金曜日に退院させるんですよ。

金曜日の朝に検査して、検査データがよかったら金曜日出てってくれて金曜日出したんですよ。

でも患者さんの家族にしてみればいい迷惑なんですよ。

金曜日お爺ちゃんお婆ちゃん迎えに来てくれて言われたらですね、

休んで病院まで来て車に乗って帰らなくちゃいけないんでね、朝からね。

それ無駄なんですよ。

だから金曜日に検査してよかったらお爺ちゃん金曜日はゆっくりして土曜日の朝お家の人に来てもらってねでもいいんですよ。

土日って病院がガラガラなので、逆にね、月曜日の朝にめちゃくちゃ入院させるんですよ。月曜日の朝に。病棟がごった返すんですよ、それも患者さんの家族にとってはいい迷惑で月曜日の朝に患者さんのお爺ちゃん、お婆ちゃん連れて来ようと思ったら、お家の人仕事休んで連れてくるわけですよ。

月曜日の朝、それだったら日曜日の午後に入院してもらって、日曜日の夕方にしてもらってね、今晚はゆっくり体調整えて、明日月曜日から頑張りましょうと言って、日曜日の病棟も埋まるんですよ。我々そうやって平均在院日数も1日ぐらい延ばしました逆に。

それだけでも全然違うんです。これで何か若いドクターたちはそんなことすると患者さんと患者さんの家族に迷惑だとか、何かそういうふうに言うんですけど、そんなこと全然ないんですよ。患者さんも患者さんの家族もみんな喜ぶんですよ。それをする金曜日は月曜日仕事を休まなくて済むと。もちろん若い人で忙しい人とかね、そういう人は別に無理する必要なくて金曜日に帰りたかったら帰ってもいいし、月曜日がよければ月曜日に来てもらっていいですけど。それでだいぶ土日の入退院が増えましたですね。

これちょっとそんなやっぱり何でも患者さん中心に考えるとですね、やっぱりなんか、巷で常識だと思われていることがですね、そうでもないんだなということが、結構あったんです。ここ山崎院長先生と全く同じ意見です。若いドクターたちが洗脳されちゃってる部分があると思うんですよ。本当にいろいろやられてて、素晴らしいと思います。

ありがとうございます。

ぜひ来年も頑張ってください、今以上の収益が上がって患者さんのサービスが向上すると素晴らしいと思います。

ありがとうございます、それでは次ですね。

他になれば、「中期目標の終了時に見込まれる業務実績評価」について事務局からご説明よろしくお願いいたします。

事務局： 本日お手元に追加資料を配布しました資料8「項目別法人自己評価集計結果一覧表」（中期目標の期間の終了に見込まれる）は、法人の自己評価をとりまとめたものとなっております。本日は時間の都合上、委員の皆様から「第1期 中期目標期間全体評価に」について意見をいただくことができません。令和3年度の単年度評価と併せましてご意見がありましたら、本日の会議から1週間を目途にお伺いをしたいと思っております。

メールや電話でご連絡をお願いします。

また事務局からも、8月10日頃に確認をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今後、評価委員会の意見を反映しまして、令和3年度の単年度評価と第1期中期目標期間全体の評価を作成しまして、次回の評価委員会にご提案させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

議長： はいこの4年分の評価はもう大方済んでということですので、
いただいて何かありましたらご連絡ください、ということになるかと思います。
他に全体を通してございますでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら事務局から令和3年度第1期中期目標期間の見込み評価についてのご提案をいただきたいと思います。よろしいでしょうか

事務局： 今後の進め方についてのご提案をさせていただきたいと思います。

事務局案といたしましては、新型コロナウイルス感染症の第7波も懸念されているところですので、度々の対面での会議の開催は控えさせていただきまして、第2回評価委員会は書面審議にてお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

先ほども説明した通り、評価委員の皆様には、追加の意見等がありましたら、本日の会議から1週間を目途にお伺いしたいと思っております。

書面審議の方法につきましては、今回の評価委員会の評価を取りまとめて、追加事項等を含めまして、全体評価として送付させていただき、承認をいただく形になると思います。スケジュールといたしましては、8月下旬から9月上旬に第2回評価委員会として書面審議を行いたいと考えております。

その後は10月に大月市議会の議員定例懇談会に報告をした上で、市のホームページや広報紙で周知をする予定としております。

なお、今年度は、現在の第1期中期目標期間の終了時見込みの評価も実施することから、評価委員の皆様のご意見をもとに、病院業務を継続させる必要性、組織や業務全般についても検討をしなければなりません。大市立中央病院はコロナ禍での目標期間中に徐々にではありますが、経営改善の方向に進んでいると思われます。

そこで、事業継続を基本として、さらなる業務の改善などを目指した第2期中期目標案の策定に着手したいと考えております。

第2期中期目標案も議会の議決が必要となるため、先ほどのスケジュールと並行して事務を進め、12月定例市議会に提案をする予定を考えております。

また、中央病院が作成する第2期中期計画についても今後協議の上、同時進行で第2期中期計画案の作成を進めていきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。以上です。

議長： はい、ありがとうございました。

非常に重要なお話で、事業を中止すべきかどうか。小俣先生いかがですか。

小俣委員： いや大丈夫、大丈夫です。

議長： はい。私も黒字ですし、大丈夫じゃないかなと思うんですけども。病院も非常によくや
っていただいていますし、和田先生いかがでしょうか。事業の継続に関しまして。

和田委員： 特にありません。

議長： 大丈夫でしょうか。

蜂須賀先生もよろしいでしょうか。

蜂須賀委員： はい。

議長： 松田先生もよろしいですか。

松田委員： はい。

議長： そうしましたら事業の継続を基本とした事務局のスケジュールを今後進めていただきたい、
ということでこの評価委員会の意見とさせていただきたいと思います。

それでは第2回の評価委員会のご説明ありましたように、一応書面審議で評価内容を取りま
とめていただきますのでよろしくお願いします。今日の議論は出尽くしたというふうに思
います。

よろしければ以上をもちまして議事を終了させていただきたいと思いますがよろし
いでしょうか。はい。それでは皆さんどうもありがとうございました。

これで事務局にお返しいたします。

司会： 榎本委員長ありがとうございました。

委員の皆様にも慎重な審議をいただきありがとうございました。

その他について何かございますか。

事務局： 事前に評価やコメントなどを記入いただきました書類につきましては後日返却をさせていただきますけれども、本日は回収ということでお願いしたいと思いますので、机の上に置いてお帰りいただきますようお願いいたします。よろしくお願いします。

榎本委員： これ全部置いてくんですか。

事務局： そのコメントを書いてある場合、そうですねコメントの記入がある場合は全部申し訳ありません。

司会： その他何かございますか。

ないようですので、それでは令和４年度第Ⅰ回地方独立行政法人大月市立中央病院評価委員会を終了いたします。

本日は長時間にわたり慎重なご審議、どうもありがとうございました。

お疲れ様です。

ありがとうございました。

どうもありがとうございました。